

山岳部における利用のあり方検討について

環境省九州地方環境事務所

1. 開催結果概要

「屋久島世界自然遺産・国立公園の山岳部における利用のあり方検討会」を4回開催し、昨年度整理した「ビジョン検討にあたっての主な論点」について議論しながら「屋久島世界自然遺産・国立公園の山岳部適正利用ビジョン（素案）」をとりまとめた。

(1) 検討会開催日時

- 【第1回】平成29年7月17日（月）午後 検討会
- 【第2回】平成29年8月18・19日（金土）現地踏査（花山歩道>鹿之沢小屋>淀川）
平成29年8月20日（日）午前 検討会
- 【第3回】平成29年11月4日（土）現地踏査（荒川登山口～縄文杉・高塚小屋往復）
平成29年11月5日（日）現地踏査（繁忙日の白谷雲水峡）
平成29年11月6日（月）午前 検討会
- 【第4回】平成30年1月29日（月）午前 検討会

(2) 参加者 五十音順。敬称略

- 【検討委員】 柴崎茂光（国立歴史民俗博物館 准教授）
土屋俊幸（東京農工大学大学院 教授） ※座長
吉田正人（筑波大学大学院 教授）
- 【関係機関】 林野庁九州森林管理局
鹿児島県
鹿児島県教育委員会
屋久島警察署（欠）
屋久島町
公益財団法人屋久島環境文化財団
屋久島町議会
屋久島町区長連絡協議会
公益社団法人屋久島観光協会
屋久島山岳ガイド連盟
屋久島レクリエーションの森保護管理協議会
宮之浦岳岳参り伝承会
環境省九州地方環境事務所
- 【オブザーバー】 屋久島世界遺産科学委員会委員

ビジョンの構成図

論点

1. 前提となる考え方

2. 屋久島山岳部の保護と利用の「目指す姿」又は「あるべき姿」

3. 利用者へのサービス

4. 利用による自然への負荷軽減

5. ゾーン設定の考え方

6. その他

ミッション

※ビジョンは、前提となる認識と考え方を踏まえた、目指すべきゴール・目標像を示す

【ビジョン作成の目的】

これまでの課題対応型保護管理だけでなく、先を見据えた能動的保護管理を行い、登山利用による自然環境への影響を抑制するとともに、利用者に質の高い利用体験を提供するため、山岳部の適正利用ビジョンを作成する。

【一言フレーズ】

保留

【前提となる認識と考え方】

論点1.

- (1) 保全重要性の高い自然環境
- (2) 人と自然とのかかわりー畏敬・感謝・遠慮の心ー
- (3) 次世代への継承と持続的な利用

【未来像・目標(100年後の目指す姿)】

論点2.

- (1) 原生性、神聖性、数千年レベルの時の流れ、つながりと循環、自然の恵みと厳しさが残る山(島)
- (2) 登山初心者から上級者まで自然を深く堪能できる山(島)
- (3) 人と自然の関わり方、新しい山の文化を模索し、発信する山(島)

基本方針

※基本方針は、未来像・目標(100年後の目指す姿)を実現するための取り組みの方向性

【未来像・目標(100年後の目指す姿)】

【基本方針】

論点3. 4. 5. 6.

原生性、神聖性、数千年レベルの時の流れ、つながりと循環、自然の恵みと厳しさが残る山(島)

- 自然環境の厳正な保護
- 過不足ない適切な管理(施設の整備・維持管理、利用者管理など)

登山初心者から上級者まで自然を深く堪能できる山(島)

- 登山ルートごとの利用、管理方針(水準)の設定
- 情報の発信・提供
- 個別管理者の責務の遂行と、管理者・関係者の高度な連携による管理
- 体験の質や自然環境等への影響の把握と、影響への対応実施基準の明確化
- 過不足のない適切な管理(施設の整備・維持管理、利用者管理など)
- 人と自然の関わり等を学ぶ機会の提供

人と自然の関わり方、新しい山の文化を模索し、発信する山(島)

- 人と自然の関わり等を学ぶ機会の提供
- 地域の伝統的な人と自然の関わりに配慮した管理
- 様々な関係者を巻き込んだ管理体制
- 意識を高く持った管理(自然環境の保護と利用体験の提供)
- 情報の発信・提供

2. 全体スケジュール

